

令和２年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校自己評価表

令和２年度、本校は以下のような目標・方策をもとに、教育活動を実施しました。

※評価はA・B・C・Dの４段階

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする幼きイエズス修道会の教育理念に基づき、生徒の全人格的開発を目指す。 一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして、自己形成を図ると共に、女性としての豊かな心をもって、社会の建設に貢献する人間を育成する。	総合評価
年度目標	1 一人ひとりの進路実現 2 グローバル人材の育成 3 規律ある生活態度の育成	B

	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価				総合 評価
			1	2	年間		
宗 教 部	校内の宗教的環境の整備の徹底	教室掲示標語「月の言葉」	B	B	B	B	A
		御聖堂の管理と学校内の宗教的雰囲気作り	C	A	B		
		熊本地震で破損した御聖堂のマリアさまの修理	C	C	A		
	宗教行事 (聖母祭、新入生ミサ、学院慰霊祭、点灯式、クリスマスミサ、聖劇、キャロリング、卒業生ミサ 等)	御聖堂として存続させるため、定期的なミサを行う義務があるが、コロナ禍で学院ミサが出来ないため、職員のみで参加でミサに与る。	A	A	A	A	
		学校全体で集まってミサに与ることは難しいが、何ヶ所かに分かれて、wi-fiでミサの場面を送って同時にミサに与る。	C	C	C		
		放送を通して各教室で「み言葉の祭儀」に与る。	A	A	A		
		聖劇の代わりに「クリスマス朗読劇」を行う。	C	A	A		
		クラス全体で参加できる「アドベントカレンダーコンテスト」を初めて行う。後援会の協力をお願いする。	C	A	A		
	学校全体で支援している、チャイルド・ファンド・ジャパンの2人の里子への募金 ユニセフなどへの募金	聖母祭ミサへ向けての募金活動	D	D	D	A	
		トラピストクッキー販売の収益金での募金集め	—	A	A		
		クリスマスへ向けての募金活動	—	A	A		
		チャイルドファンド・・ジャパン、ユニセフ、熊本県コロナ対策への募金	—	A	A		
		休校による不足授業時数の回復	B	B	A		

教務部	①授業時数の確保	夏季休業日数の確定	B	—	—	B	C
		教科間での授業の融通	C	B	B		
	②保護者との情報共有	夏季保護者面談の日数確保	C	—	—	C	
		授業参観・公開授業の実施	—	—	C		
	③新教育課程編成準備	編成例の収集	C	B	C	C	
		他校の状況調査	C	—	C		
		編成モデルの作成	B	—	B		
	④総務関係事業	入学式の実施	B	—	A	B	
		卒業式の実施	—	—	B		
		保護者会との連携	C	C	B		
		同窓会との連携	C	C	B		

生徒指導部	規律ある生活の徹底	制服、髪型など身だしなみの徹底	B	B	B	B	B
		挨拶などの徹底	B	B	B		
		定期的な生活検査と、事後指導の徹底	D	B	B		
		全校朝礼・終礼、または放送などによる生活全般における諸注意	B	B	B		
	いじめの防止	毎学期のいじめアンケート	A	A	A	A	
		いじめアンケートの結果による早期の対応 （学校全体の取り組み）	A	A	A		
		全校朝礼・終礼、または放送などによるいじめ防止の啓発	A	A	A		
	交通事故の防止	日頃からの交通指導の徹底 （歩行・自転車などのマナー）	B	A	A	A	
		警察からの情報を適宜、生徒へ知らせる	A	A	A		
	防災意識を高める	日頃からの防災に対する意識付けの徹底	C	C	C	C	
		定期的な避難訓練の実施（２学期）	—	—	—		

		受験対策としての課外及び高校３年生の共通テスト対策・個別試験対策の授業を継続して実施する。	A	A	A		
--	--	---	---	---	---	--	--

進路指導部	体系的な進路指導の推進	校外模試・小論文指導・面接指導を企画・立案し実施する。	A	B	A	A
		2021年度大学入試の情報収集と分析による、高3進路検討会及び高1、2模試分析会。	A	A	A	
		大学説明会・職業講話・進路講演会などを計画・実施し、生徒の進路目標が明確になるように努める。	—	C	B	
	進路実現に向けての＋αの学習や校外活動参加の促進	受験校決定や教職員間の情報共有のため学年団との会議を定期的に行う。	A	A	A	B
		第一志望を大切にする進路指導（面談週間・文理分け説明会等）	—	B	A	
		大学入試改革に向け、学内外での活動を活動履歴（プロセス・気づき・振り返り）にまとめる。	D	D	B	
		学習に対する意識を高めるため、毎日の学習時間を（CHALLENGE CHANGE）に記録させ、1週間ごとに提出させる。	A	A	A	
		国公立大学医学部医学科志望の生徒に対する指導の強化	B	C	C	
		九州大学の魅力を伝えるために、高校1年生での九州大学訪問。	—	—	—	
	生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	進学資料（1号・2号）・進路速報などを作成し、生徒・保護者に向けて進路に関する様々な情報を迅速に伝える。	B	B	B	B
		進学資金講演会、保護者向け文理分け説明会、大学入試改革説明会を実施する。	—	A	A	

広報部	適切な役割分担と組織運営	年度の実態に応じ、課題確認と業務の改善に努める。	B	A	B	B	B
		校務全体の円滑な推進のため、職員間の密な連携を図る。	B	B	B		
		業務記録、資料保存に努める。	B	A	A		
	校内での進路や行事に対する取り組みを積極的に広報活動に活用し、志願者層の質と量の確保に努める。	学校案内、ポスター、チラシ、広告（新聞、雑誌等）、インターネットなど様々な媒体を通した広報活動の充実と各中学校・塾に対するきめ細かい対応を心掛ける。	B	B	B	B	
		各科コースの活動内容、実績、特色について、より具体的に明示し、志願者増（特に専願）へつなげる。	C	C	C		
		中学校・塾・個人宛の郵送物は計画的に準備し、迅速に対応することを心掛ける。	B	B	B		
研修部	研修体制の確立と実践	生徒の実態や自校の教育課題をふまえ、全教職員による校内研修会を行う。	B	C	C	C	C
		授業研修を充実させ、見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る。	C	C	C		
		校外での研修を受ける体制を整え、全教職員が積極的に校内研修に参加し、自己の成長を促す。	C	C	C		

普通科特進コース	学習時間を十分に確保できる生活習慣の確立	学習記録の記入・提出をさせ、学習状況をふりかえらせる。	A	A	A	A	B
		生活・学習改善が必要な生徒には、助言・支援を行う。	A	A	A		
		短・中・長期目標を設定させ、達成に向け計画を立てさせる。	A	B	A		
	大学受験に対応できる学力の育成	予習、復習の徹底。個々に応じた添削指導。	A	A	A	A	
		課外を充実させ、必要に応じて適宜補習を行う。	B	B	B		
		外部模試を活用した学力分析を行い、教科のバランスを確認し弱点対策を早めに行う。	B	A	A		
		共通テストを全員が受験する	A	A	A		
	自分らしい社会貢献の模索	生徒との信頼関係を構築し、生徒理解に努める。	A	A	A	B	
		適宜二者面接を行い、教育相談等を通して、生徒の生き方を共に考える。	B	A	A		
		「どう生きるか」将来につながる進路指導を行う。	B	B	B		
		ボランティア活動への積極的な参加を通して、社会が抱える問題に目を向けさせる。また、幅広い分野から外部講師を招き、進路講演を行う。	B	D	C		
	国公立大学、難関私立大学への合格実績	九州大学以上合格者 2名以上	—	—	D	D	
		熊本大学合格者 10名以上	—	—	D		
		国公立大学合格者 20名以上	—	—	D		

普通科普通コース	1. 落ち着いた学校生活 基本的生活習慣を身につける。	挨拶の徹底、服装・髪型をきちんとする	B	B	B	A
		教室の整理整頓	B	B	B	
		遅刻・欠席者を減らす（遅刻者カード活用）	A	A	A	
		保護者との連絡を密にとる	A	A	A	
	2. 基礎学力の定着と向上 自主的な学習習慣を身につける。	1 年次英語、数学の習熟度クラス編成。	A	B	B	B
		終礼後 15 分の自主学習	B	B	C	
		課題等提出物の徹底	B	B	B	
		授業の工夫	B	B	B	
	3. 生徒の個性を見極め、上級学校への進学を目指した進路指導 グローバル時代の要請に応じた国際理解教育の実施。	1 年次、大学や職業について調べ学習・発表、特別授業等	B	A	A	B
		2 年次、小論文対策。本校での大学説明会（進路部主催）	A	A	A	
		英検、GTECなどの検定試験推奨と対策 オンライン英会話の導入	B	B	A	
		受験に対する生徒・保護者向けの説明会（文理分け含む）	C	B	B	
	4. 生徒会活動、ボランティア活動、部活動への積極的な取り組み。	生徒会活動への積極的な参加	B	B	B	B
		ボランティア活動への積極的な参加	C	C	B	

情報 ビ ジ ネ ス 科	5つの凡事徹底	気持ちのよい挨拶と返事	A	B	B	B	B
		提出期限の手続きの厳守	B	C	C		
		遅刻・欠席をしない	B	C	C		
		時間厳守と5分前行動	A	B	A		
		教室の整理・整頓	A	A	A		
	コミュニケーション能力の育成	相手の話をきちんと聞く	A	B	B	C	
		わかりやすく伝える	B	B	B		
		他の人に働きかける	C	C	C		
	基礎学力の向上	生活時間ノートの活用	B	B	B	B	
		課題などの精度	C	B	B		
	進路実現への手立て	進学指導	B	A	A	A	
		就職指導(公務員も含む)	B	A	A		
		保護者向け情報発信	B	B	B		
高 校 1 学 年	基本的生活習慣の確立	清掃活動の徹底により、思いやりの心を育てる。	A	A	A	A	A
		挨拶の励行により、良好な人間関係を築く。	A	A	A		
		5分前行動、時間厳守の自覚を持たせる。	B	B	B		
		黙想や祈りを通して、カトリック精神を培う。	A	A	A		
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	Challenge Change ノートを活用して、自主的に学習計画を立てられる力を身に着けさせる。	A	A	B	A	
		授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、教科担当者との連携を図る。	B	B	A		
	進路指導の充実	進路指導部と連携し、適切な時期に、適切な進路情報を、生徒及び保護者に提供する。	B	B	A	A	
		LHRおよび総合的な探究の時間を活用し、将来の目標や職業観を育む指導を行う。	B	A	A		
	他者を思いやり、自尊感情を高める	部活動や学校行事への参加を通し、他者への思いやりや、多様性を受け入れる力を育てる。	A	A	A	B	
		修学旅行や学校行事を通じて、行動力や主体性を高め、リーダーを育成する。	B	B	B		

高校2学年	自学の定着	1、学習と生活の記録をチェックし自学時間の確保と定着へ向けて助言する。	A	A	A	A	A
		2、授業担当者と生徒の学習状況を共有する。	B	A	A		
		3、学習が不得手な生徒と面談して励ます。	B	B	A		
	充実した進路指導	1、入試情報を生徒へ確実に伝える。	A	A	A	A	
		2、面談により生徒の進路を共に模索する。	D	B	A		
		3、講演会などを開催して動機づけをする。	C	C	B		
		4、保護者会を実施して進路情報を共有する。	D	B	A		
	校則違反・いじめ・退学率ゼロ	1、生徒の言動、クラスの雰囲気に敏感となり、いじめに発展する行動を未然に防ぐ。	A	A	A	A	
		2、不登校の生徒を担当を中心に学年全体でバックアップする。	A	A	B		
	コミュニケーション能力の育成	1、クラスの垣根を越えて意思疎通を図る機会を設ける。	D	D	C	C	
		2、自分の意見を発信するよう生徒を励ます。	D	C	B		
		3、総合的な探究の時間で班員でプレゼンする。	D	C	C		
高校3学年	受験を意識した礼法 (身近なところから意識させ支援する)	挨拶（教師から明るい笑顔で行う）	B	B	B	B	B
		授業の始まり、終わりのお辞儀（間のとり方）	B	B	B		
		全てにおいて早めの準備の習慣	C	B	B		
	積極的な進路の準備	将来の夢に何が必要か調べ、行動に移す。	C	B	B	B	
		進路先の大学・企業が求めている人材に近づくための努力	C	B	B		
		行事（学校・地域）・ボランティア・部活動・参加	B	C	B		
	主体的に学ぶ姿勢の定着	面談をいろんな角度から行い、生徒の不安を早めに取り除き、やる気を起こす。	B	C	B	B	
		新聞やニュース等を通じて、自分に関わる情報を調べ課題解決を行う。	C	B	B		

中学校	基本的な生活習慣の確立	毎日元気に登校するために、規律ある生活を意識させる。	B	B	B	B	B
		挨拶、清掃、時間厳守、授業集中の重点項目の指導の徹底	B	B	B		
		面談、スコラ手帳、一週間のふり返りシートなどを活用し、生活指導の充実を図る。	B	B	B		
	基礎力充実に重点を置いた教科指導	授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びを習慣化させる。	A	A	A	A	
		課外授業の充実	A	A	A		
		ICTを活用した授業支援のための環境整備	B	A	B		
	日常生活、行事、ボランティア活動を通じての人間形成	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、自己と向き合うことを習慣化させる。	B	A	B	B	
		宗教行事、ロザリオの祈りを通じて、祈る心を養う。	B	A	B		
		全校で地域清掃ボランティア等に取り組む。	B	B	B		
	生徒会活動を通じての自主性の養成	常任委員会活動の活性化	C	B	B	B	
		生徒会が企画する活動が、生徒の主体性や統率力、協調性を育む場になるよう、支援的な指導を行う。	B	B	B		
	総合学習を通じての国際文化理解と円滑な人間関係を図る	野外活動や学習発表会を通して、自他のつながりの大切さを知りよりよく成長する場になるよう、支援的な指導を行う。	C	A	B	A	
		総合学習の授業では、諸外国の文化や習慣を尊重し、理解することを主眼にし、異文化理解力の向上を図る。	B	A	A		

保健室	基本的生活習慣の確立	不調の原因と改善方法を、生徒自身が考えられるように支援する。	B	C	C	C	B
		生徒の様子について、担任と情報交換を行う。	B	B	B		
		必要な場合は、家庭に連絡し、協力を仰ぐ。	C	C	C		
		修学旅行前に、生活習慣について指導する。	—	—	—		
	定期健康診断の円滑な実施	学校医や、学校歯科医、関係機関等との打ち合わせを綿密にする。	B	A	A	B	
		事前に、各項目の感染症予防対策を検討する。	A	A	A		
		実施方法について、職員へ周知する。	B	B	B		
		心臓病や腎臓病等で定期受診中の生徒へは受診を促し、また、受診結果の提出を求める。	B	B	A		
	個別支援の充実	担任との情報交換を密にし、連携して対応にあたる。	B	B	B	B	
		月に1回、校内支援委員会を実施する。	B	B	B		
		必要に応じてSCやSSWへつなぎ、状況の把握と改善に努める。	B	B	C		

令和2年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校評価

◎学校生活について、生徒及び保護者へのアンケート結果

①非常にそう思う	②だいたいそう思う	③あまりそう思わない	④全くそう思わない
----------	-----------	------------	-----------

※生徒による評価		①	②	③	④
1	熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活に生かされている。		61.9%		27.8%
2	礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。		84.5%		11.6%
3	落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。		83.3%		13.7%
4	それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。		78.8%		15.3%
5	熊本信愛女学院に入学して良かった。		75.1%		14.4%

※保護者による評価		①	②	③	④
1	熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活からうかがえる。		67.1%		21.5%
2	礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。		89.7%		6.4%
3	落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。		86.7%		6.8%
4	それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。		81.5%		11.2%
5	熊本信愛女学院に入学させて良かった。		89.3%		6.4%

令和3年度 学校評価アンケート分析

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により、聖母祭・体育祭・文化祭・クリスマス祭・修学旅行等の主な学校行事が実施できず、生徒たちにはやや物足りない学校生活であったかもしれないが、「礼儀やマナーを重んじる教育が行われている」「落ち着き、集中して授業に取り組める環境である」の評価は生徒、保護者ともに高く、カトリック精神に根差す、121年の伝統に裏打ちされた熊本信愛女学院の教育活動が揺るぎのないことを証している。今後もこれらを基盤にして、「それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・進路指導」をさらに効果的に実施して、生徒それぞれの進路保障に力を入れながら、「熊本信愛女学院に入学して良かった・入学させて良かった」の項目がますます高まるように努めていきたい。

学校評価委員からの意見

○カトリック精神を基盤とした生活・教育・進路においても、とても努力しておられると思います。

○創立121年の伝統、カトリック精神を学べる唯一無二の女子校だと思います。

○「不易流行」という言葉がありますが、時代とともに変改すべきは時代に先んじて変革し、また、どんなに時代が違っても変えてはならない本質は絶対に変えない信念が必要だと思います。

○これからの進学あるいは就職にしても、本人の個性とコミュニケーション能力が問われる時代で、それらを伸ばしてあげる教育や先生とのコミュニケーションが大事だと思います。それには中学生のときから勉強も大事ですが、いろんなことに挑戦させ、自分のしたいことを探すということも大事かと思います。

○学校行事や生徒活動が制限される中、学院のHPやLINEでの発信はとても具体的で保護者にとっては、嬉しいことだったと思います。また、進学を控えている家庭や児童生徒にとっても貴重な情報になったと思います。

○中学校、高等学校ともに学年ごとの教育方針が明確化されており進学実績につながっていると思います。しかし、進学実績、教育理念が外部にあまり浸透していないように思うので、発信力のさらなる拡大ができればと思います。